

公益社団法人 宇佐高田青年会議所 2023 年度 理事長所信

第 50 代理事長予定者 榎 田 和 知

【はじめに】

皆さんは入会前 JC を知っていましたか？

何故 JC に入りましたか？

理由は様々だと思いますが入ってみて、入る前と意識は変わりましたか？

青年会議所は『JC 宣言』や綱領にあるように、

「希望をもたらす変革の起点として輝く個性が調和する未来を描き社会課題を解決することで持続的な地域を創る」や「明るい豊かな社会を築き上げる」と掲げています。

漠然としていて分かりにくいと思いますが、LOM 単位で考えるとこの明るい豊かな社会の実現とは「誰の為に何故」築き上げるのでしょうか。

我々はこの地域で生業をし、住暮らすうえで家族を守り、後世へと繋げていかなければなりません。社会課題や、地域課題を小さなうちから見付け解決することで、環境も経済も発展させ、子どもやその先の子孫の為に時代に合わせた「明るい豊かな社会」を継続して築いていく事、それは短期で見ると自分の為ではないかと考えます。

青年会議所は様々な発展と成長の機会が提供されているとよくいいますが、待っていても成長に繋がりません。自らの成長の為率先して参加し、機会を掴み自己研鑽することでリーダーとなり、後輩を導き機会を提供する側になることで、継続して「明るい豊かな社会」を築いていけるのではないのでしょうか。

【歴史と現在】

1974 年 6 月 9 日様々な困難を乗り越え、中津青年会議所のスポンサーのもと、宇佐青年会議所は、全国で 552 番目に認承され、50 年という長きに渡り数々の先輩方により「奉仕・修練・友情」を三信条に、明るい豊かな社会の実現を目指し、社会課題に真っ先に目を向け、様々な事業や功績を残され、本年 2023 年まで継承されてまいりました。昨年は会頭を大分県より中島土君が務め、全国大会大分開催、本年度は福岡県より麻生将豊君が務め、大分・九州が注目を浴びている。このような素晴らしいタイミングに、これまで多くの先輩方が地域を愛し、運動・活動する事で紡いで頂いた宇佐青年会議所は本年度創立 50 周年の節目を迎えます。この機会に我々の活動エリアである豊後高田市を名称に加え

「公益社団法人宇佐高田青年会議所」としてスタートし、市民対象の事業を行いより多くの方々に情報発信する事で、青年会議所の存在を知って頂き、理解を得ることで、会員拡大にもつながり、我々の運動・活動にも大きく影響し、未来につながる成長の年となります。

【人づくりグループ】

時代の変化や利便性の向上により、様々な部分において人と人との直接的なコミュニケーションの場が減りつつあります。さらに誤った使用や危険性の面で公園などの遊具も減り、外で遊ぶ環境も減っているように感じます。

わんぱく相撲担当委員会では、本年度も第36回わんぱく相撲を開催します。過去の経験を活かし、コロナ禍の中昨年も万全の態勢で感染対策に取り組み、国技である相撲を通じ、「礼」を学び、勝敗にかかわらず相手を思う気持ち等、希薄化されつつある道徳心を醸成する場を提供する事で、地域の未来を担う子供たちの成長に寄与します。

【地域づくりグループ】

地域課題を見つけ、解決に向けて運動・活動を発信する事で、地域から必要とされる団体でなければなりません。地域をより良く住みやすくする事は自分の為であると考え、メンバー全員が当事者意識を持ち、我々の目指す「明るい豊かな社会の実現」に向け中長期先を見据えた計画をする事で永続的に必要とされる団体になると確信します。

地域貢献委員会では、第7回郷土愛祭りを実施し、地域の方々や企業・行政の協力を頂き、地域の魅力を発信するべく事業を展開します。また、第7回宇佐神宮マラソン実行委員会へ実行委員長を輩出し、行政や各種団体等と連携を図り開催に向けた運動・活動を展開します。

【50周年グループ】

これまで時代に即した青年会議所活動を通し、様々な困難を乗り越え歴史を紡いで頂いた先輩方の積み上げてこられた信頼のもと、我々は運動・活動が出来ている事を忘れず、未来へと繋げていかなければなりません。

50周年実行委員会では、大きな節目の年であり、改めて感謝の気持ちを表すべく50周年記念式典、また、地域の方々へアピールするチャンスの年として捉え、記念事業を開催します。50周年という歴史的な年をメンバー全員で参画、経験する事で成長に繋げ、宇佐高田青年会議所の未来に寄与します。

【運営グループ】

総務委員会は、総会・例会・各種事業の情報、会員個々の情報を常に循環させ、運動・活動をスムーズに進めていく要となり、土台となり、より円滑かつ効率的な運営を目指

し、メンバーの参加意識を高め、すべての事業の基礎となる各種会議・総会・例会を必要十分な設えで確実に開催し、各種会議の必要性や重要性を理解してもらう事は最も重要な使命の一つです。議案上程者・参加者の入念な準備を促し、会議一つひとつの機会を会員の成長と地域の諸問題解決につながる、実りある内容とすることが必要です。また総会・例会の開催にあたっては、高い出席率のもと、会員にとって成長の機会としての内容を目指します。各種メディアや、ホームページとSNSを活用し情報発信することは、宇佐青年会議所のブランディング、知名度向上に直結します。適時かつ適切な情報の発信により、運動の対象となる市民、将来の仲間となりうる青年への、効果的な広報活動が必要です。本年度50周年を迎える事を機会に、より一層先輩方とのつながりを深め、ご理解ご協力を頂けるように取り組みます。渉外では日本青年会議所、九州地区協議会、大分ブロック協議会、近隣青年会議所との連絡を密にし、良好な関係を築くことで、相互に事業の効果を最大化することに寄与します。

【結びに】

JC っち何なん？私が青年会議所に誘われた時の感情でした。入った方が良い！入っとかなきゃ損だ！こんな事をしてる！色々説明を受けたが、理解出来ず断り続けていた私に父が「会とか団体とかにも入りきらんでどげすんのか！入れ！」と言われ、再度青年会議所の勧誘者に話を聞き、「とりあえず月一回の例会に参加しとけば良いから」の言葉を信じ、目的も意識もなく2007年5月宇佐青年会議所の門を叩きました。

入会当時は本当に何もわからず誰も知らない状況で、例会に行くのすら苦痛でしたが、「とりあえず月一回の例会に参加しとけば良いから」だけは私の性格上守ると決めていたので懇親会はほぼ出ず例会の参加は続けていました。自ら知り合う機会・成長の機会を無駄にし続け約一年後、初めて事業に参加しました。何もわからない私は誰に聞くことも出来ず、朝会場に行くと誰も居らず、何してんだろ俺・・・とっていました。集合時間を少し過ぎたところに車が何台か来はじめたので降りていくと、「来てくれたんか！委員会メンバーの集合時間やけまだはえーぞ！でも来てくれてありがとな！今日宜しく！」この言葉にすごく救われたのを今でも覚えています。この日成長の機会を掴みに行き、例会参加率やその事業の時の出来事からメンバーから声をかけて頂けるようになり、懇親会にも参加する事で徐々に皆さんに馴染ませていたと思います。

大分ブロック協議会のアカデミーに参加の声掛けも頂き、他 LOM のメンバーとの出会いの機会を頂きました。ですが若く入会した事もあり、10年ほどただ参加するだけで、間に役員もさせて頂きましたが、お客様気分が抜けず、「させられている」「指示がないから」などと当事者意識も無く、機会を得て役職をお預かりし、委員メンバーへ機会の提供をする立場にありながら成長もせず、自分本位な考えでただ事業を行っていました。自分に自信のない私は、入会してくるメンバーは年上ばかりで学も高く、事業規模も大きく能

力の高いメンバーに甘えていたのだと後悔しています。そのころ同期メンバー達と LOM の危機感について話すようになり、2017 年専務理事の職をお預かりした事で青年会議所活動に対し本気で向き合い、危機感を感じ、この素晴らしい団体をいかに残し、地域に必要とされる団体になるかを考え運動・活動してまいりました。我々の活動は同じ志を持ったメンバーが多く居るに越したことはありません。JC を知らなかったり、イメージが悪く見られていたりすると入会が遠のいてしまいます。入会して率先して活動すると自己成長の為、地域の為に素晴らしい事をしている事をメンバー自らが実感し、楽しむことが大切だと考えます。これまで時代に合わせ、20 歳から 40 歳までの青年時代を愛する地域の為、家族の為に切磋琢磨し運動・活動されてきた先輩方、そしてここまで支えて頂いたすべての方々へ感謝し、入会の浅いメンバーが大半を占める今、早くから当事者意識を持ち理事長を目指そうと思われるような見本となれるよう、自らが楽しみ、メンバーと共に地域を愛し、精一杯駆け抜けてまいります。